

和歌山大学学生自主創造支援部門（クリエ） クリエプロジェクト
 <2023年度ミッション成果報告書>

プロジェクト名：新クリエ映像制作プロジェクト-Filimage-

ミッション名：テレビ和歌山共同番組制作

ミッションメンバー：経済学部2年小森貴登、観光学部2年近藤瑠理 他19名

キーワード：株式会社テレビ和歌山、共同制作、撮影、編集、企画

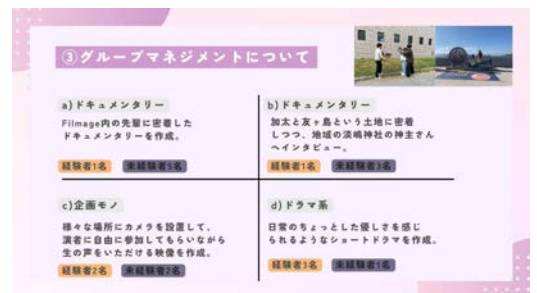
背景と目的

本ミッションは「株式会社テレビ和歌山様との共同番組制作」と「本団体の技術向上」を目的とした。今回、本ミッションを行った動機・背景としては次の通りである。まず、昨年度に当団体が制作した短編映画をきっかけに、株式会社テレビ和歌山様からお声がけ頂き、プロジェクトが始動した。昨年、当団体には「複数人での撮影・編集を行うための仕組み作りが確立していない」という課題があった。そこで本ミッションを通じて、株式会社テレビ和歌山というプロの現場を体感し、一年間を通したプロジェクトを行うことで大人数での番組制作におけるグループマネジメントを学べるのではないかという狙いがあった。また、「企画」「撮影」「編集」においても同様に、テレビ局独自のノウハウを学ぶことを目指した。

加えて、株式会社テレビ和歌山様にとっては、地元の大学生が企画に携わることで、より「ローカルを極める」ことがメリットとして挙げられた。続いて、本ミッションの到達目標としては、制作した映像の「再生回数1万回」である。今回作成したショート動画は、テレビ放映だけでなく番組公式 SNS での発信を予定している。

1. 活動内容

4月	・合同 MTG（今後の予定について） ・テレビ和歌山見学
5月	
6月	・映像制作講座の開催 ・合同 MTG（企画内容について）
7月	・合同 MTG（企画本決定） ・代表者何名かでショート動画仮提出
8月	・班ごとに活動を週1回に定例化
9月	
10月	・合同 MTG（進捗共有）
11月	・各班撮影 ・合同 MTG（進捗共有）
12月	各班撮影
1月	高校生向け企画説明会



本年度の活動スケジュールは上記の通りである。株式会社テレビ和歌山様から企画段階から共同で考えたいとの声を頂いたため、当団体からは映画やドラマの企画案を複数提出した。また、株式会社テレビ和歌山様からは、特別番組制作やミュージックビデオの提案頂いた。しかし、予算や時間の制約上、これらの企画を行うことは困難であったため現在の「ショート動画」の企画へと移行・決定した。企画内容は以下の通りである。

【企画内容】

テーマ：「つながる～やっぱ和歌山」

詳細：当団体と、県内の高校生に「つながり」や「和歌山」を感じられるショート動画を募集し、テレビ放映

時間：15～60秒

7月に企画が決定し、まずは代表者何名かでショート動画を仮制作した。そして提出時に、感じた難点や感想を株式会社テレビ和歌山様と共有し、企画の改善に繋げた。

また、昨年度より大人数での映像制作に課題があったので、制作は4つのグループに分かれることとした。その後、各グループでショート動画の企画、本制作という実践的な活動に移った。その結果、それぞれのグループでは、ドキュメンタリー調の映像や、企画モノ、ドラマ調の映像の制作が進行している。

グループでの制作により、多彩な映像の制作が可能になった他、経験者同士がある程度グループを引っ張ることで非常に効率的な活動を行うことができた。

一人一人が映像の制作に関わる機会が増えたため、グループでの制作は非常に有効であったといえる。

そして1月には、高校生向けに企画説明会を行い、ショート動画募集にあたってのポイントを説明した。

現在は、各班で編集等を行い、提出までの最終調整を行っている。

2. 活動の成果や学んだこと

本活動から得た学びは大きく分けて次の三点である。一点目は、メッセージの弱さである。二点目に、企業様とのやりとりの難しさである。三点目にグループマネジメントの難しさと留意すべき点についてである。

メ ッ セ ー ジ 性 の 弱 さ に つ い て
今回のショートムービー制作の初期段階に我々のプレ的に制作した映像をテレビ和歌山の風尾様にフィードバックを頂戴した。その内容の一つとしてメッセージ性の弱さが挙げられた。つまりは我々の中で伝えたい思いや、意図が存在した場合であっても、それを伝えるためのカットが必要であり、そのためにはそれぞれのカットの構図や内容により多くの意味を含ませる必要があるということ学んだ。そして特に、このカットの重要性はショートムービーであるからこそより顕著に現れているのではないかと感じた。これらのカットの重要性について、本ミッションにかかわらず映像制作全体へのフィードバックと考えて、今後のFilmageの活動に生かしていきたいと考える。

企業様とのやりとりの難しさについて

本ミッションのプロジェクトの話を受戴したのはちょうど2023年の2月ごろであった。きっかけは風尾様より本プロジェクトの湯川にご連絡をいただいたことであった。そこから様々なフェーズを乗り越えて現在のプロジェクトの形が生まれた。最初期においては和歌山大学新クリエ映像制作プロジェクト！とテレビ和歌山とのコラボとしてのテレビ番組の政策を目指した。それに向けて我々の中でも複数の企画立案を行った。しかしながらテレビ和歌山内の議論においてその案は却下されることになった。テレビ和歌山内において様々な議論が行われた結果、現在の形であるショートムービーという企画の形が生まれたのお聞きした。またコラボの範囲を我々にとどまらず、和歌山中の高校生を含めることとなった。これまでの我々の活動では我々が作りたいもの、興味のあるものの制作を重視するものの一つとして考えていた。しかしながら今回の制作においてはそれだけではなく、大人を納得させるにたりうるエビデンスが必要であると感じた。そして今回の我々はその点において、テレビ和歌山に提示するまでに至らなかった。

グループマネジメントについて

本ミッションにおいても課題となったのがグループマネジメントの難しさ、モチベーションの維持についてである。映像制作というクリエイティブは非常に地道な場面が多い。例年、多くのメンバーが映像制作というクリエイティブへの興味から加入を決めていただけの当ミッションであるが、実際の映像制作の編集などの比較的高度な作業へ興味を示すメンバーが少ないという課題がある。そしてその点は本ミッションにおいても再度露呈した。今回のミッションを小グループ性にしたことには一人一人の関わり代を多くするという狙いがあった。課題の一つ目はそのグループの人数にある。グループは少なすぎても一人一人の課題の増加などの課題へつながるが、多すぎる場合にも責任感がなくなってしまうのではないかという懸念がある。この点については結論はせず、今後も模索していきたいと考える。

3. 今後の展開

今後の展望について短期的に、今後はテレビ和歌山50周年企画しとしてまた、50周年記念祭、その二点を目指して活動を行う。長期的な目線では、2で例示した課題への解決、特にグループマネジメントの強化を目指す。グループにて行われる映像制作は多くの場合、その役割は細分化される。しかしながら役割を細分化することの弊害はその分業の強さにあると考える。他大学のある映像制作団体は、企画と、技術が完全に分離していると聞く。実際に稼働している団体の仕組みはあらゆる場面で参考になる。しかしながら細分化した映像制作においては現在のテレビ業界において技術が下請けに任されているように上下が生まれてしまう恐れがある。その点を踏まえて我々が全員が企画であり、技術であり、みんなで協力をして映像制作をしてゆきたいという考えている。だからこそ一人一人のメンバーが技術を身につけるだけでなく、それぞれの撮影する画の意味や重要性を認識し制作にあたる必要があると考える。

今後 Filmage として各メンバーの技術の向上を目指すべくして、活動方法など様々な角度からこのグループマネジメントという大きな課題の解決を目指す。またこの課題解決こそが本プロジェクトの存続に関わる重要課題と考えて、より多くの時間を費やしたいと考える。

4. まとめ

今回のミッションにおいて我々は多くの学びを得ることができたと考える。社会人の姿の片鱗を垣間見ることができた。映像制作においてショート動画を制作することでそのカット一つ一つの重要性を再度認識することができた。グループで活動することの難しさを再度体験することができた。また、今年度の活動を通して、依頼を受けるとそればかりに注力することになってしまい、なかなか自分たちの作りたい映像が作れないこともわかった。

本年度は、本格的な他団体とのコラボレーションに始めて挑戦し、スキルアップを目指して来たが来年度は基本に立ち返って、自分たちの作りたい映像は何かを改めて追求したいと考える。オリジナルの映画制作を中心に、企画・撮影・編集を自らで完結させ、自分たちの映像の意義を考えていく。